

## 「コロナ禍でも子どもたちの学びは止めない」 小中学校での「オンライン授業」が始まっています

1月からの新型コロナウイルス変異株による全国的な感染拡大に伴い、市内の学校も感染対策強化に加え、必要に応じ臨時休業等しながら対応している状況です。このような状況においても、子どもたちの学びを止めないため「オンライン授業」も行われ始めています。

数日間の休業となった学校では、休業中の2日間ほどオンライン授業が行われました。あるクラスでは先生が学校の教室の黒板の前で算数の授業を行い、家庭にいる児童は、持ち帰ったタブレット端末で



オンライン授業の画面。大きく映し出された授業映像の上には、クラスメイトの顔も映し出される。

参加。先生はゆっくり話したり、大きな字で黒板に板書したり子どもたちへの質問を交えたりするなどの配慮をしながら、いつも通りに授業を進めます。参加する児童は、通常の学校の授業からタブレットを使用しているため、手慣れた操作で取り組んでおり、教室にいるかのように活発に発言が飛び交います。授業の最後には、教科書の確認問題に取り組み、児童は問題を解いたノートをタブレット付属のカメラで撮影し、オンラインで先生に提出して授業が終了となりました。



持ち帰ったタブレットに向かい、家庭でオンライン授業を受ける児童。

この学校では内容や時間数は異なるものの、1年生から6年生の全学年でオンライン授業が行われました。先生方のICT(情報通信技術)活用が積極的に進められてきた市内小中学校では、学力向上に向けて、日頃からICT機器を活用し工夫を凝らした授業が行われています。市ではICT支援員を活用したプログラミング教育の充実や更なるICT教育推進のための環境整備など、長い休業となっても子どもたちの学びを止めないよう、引き続き学校と連携した取り組みを進めていく計画です。

## 差別のない明るい飯山市を築く審議会が 足立市長へ答申



足立市長に答申書を手渡す常盤井会長

差別のない明るい飯山市を実現するための方法を審議す

るために、差別のない明るい飯山市を築く審議会(会長常盤井智行 飯山市人権同和男女共同参画地域推進員会長)が開催され、審議結果がまとまり、12月23日に常盤井会長から足立市長へ答申書が提出されました。

審議会では、足立市長の諮問を受け、平成30年12月に実施した「人権に関する市民意識調査」や国の差別解消に関する法律及び近隣市町村の状

況を踏まえ、慎重に審議が行われました。

答申の概要は、「差別のない明るい飯山市を築く条例」について、様々な差別が今なお存在することを明確にするため人権三法(差別解消3法)を明記すること。また、あらゆる人権問題に関する相談に的確に対応するための相談体制を充実させることが提言されました。

足立市長は、この答申を受け「差別のない明るい飯山市を築く条例」の改正に向けて検討していく方針です。

## 第23回米・食味分析コンクールで 市内小学校のお米が健闘!

全国の生産者から出品された米のおいしさを競う「第23回米・食味分析コンクール」の小学校部門に、木島小学校と東小学校の2校が出品。木島小学校は全国で5校が選ばれた「金賞」、東小学校は同じく9校が選ばれた「特別優秀賞」を受賞しました。

今回出品した米は、地域の生産者の方々の協力をいただきながら児童が栽培したコシヒカリ。両校とも米づくり学習を積極的に行っており、木島小学校はこれまで道の駅などでも一般の方々に販売を行いながら、米の学習とともに飯山のお米のおいしさをPRする活動をしてきました。

2校のほかにも、飯山市では各小中学校で米づくりや米づくりに関する学習を行っており、飯山の米のおいしさを体験を通じて学習しています。



刈り取った稲の脱穀を行う  
木島小学校児童。

## 全中・インターハイ・国体・ジュニア世界選手権 飯山から出場する選手の皆さん

- 飯山から全国大会、世界大会に出場される選手の皆さんをご紹介します。(敬称略、飯山市在住・出身選手を掲載)
- ◆第59回全国中学校スキー大会(2月1日〜4日、野沢温泉村)
    - ◆アルペン
      - 飯山高校男子リレーチーム、飯山高校女子リレーチーム
    - ◆ジャンプ
      - 第77回国民体育大会冬季スキー競技会(2月17日〜20日、秋田県鹿角市)
        - ◆アルペン
          - 飯山中学校、保坂花(長野俊英高校)、高橋和花菜(日本大学)、坂東楓(専修大学)
        - ◆クロスカントリー
          - 浦野裕之(飯山市SC)、小林皓生(中央大学)、小笠原舜(飯山高校)
    - ◆第71回全国高等学校スキー大会(2月6日〜10日、岩手県八幡平市・安比高原)
      - ◆アルペン
        - 平井颯馬(長野俊英高校)、保坂花(長野俊英高校)
      - ◆クロスカントリー
        - 小笠原舜(飯山高校)、吉越敬介(飯山高校)、小坂璃彩(飯山高校)
    - ◆ジュニア世界選手権(2月22日〜3月6日、ノルウェー)
      - ◆クロスカントリー
        - 祖父江凜(早稲田大学)
      - ◆ジャンプ
        - 中村優斗(COOTs株)、中村愛斗(明治大学)
      - ◆FISノルディックジュニア世界選手権
        - 中村優斗(COOTs株)、中村愛斗(明治大学)

## 人権学習シリーズ

### 中学校の技術・家庭科の履修から ジェンダー平等を考える

飯山市教育委員 平野弘蔵

中学校の教科に技術・家庭科があることは皆さんご承知のことです。今は、男女一緒に学習していますが、少し前までは男子は技術分野を、女子は家庭分野をというように男女別々に学習していました。という、「そうだったよな」と思う年代の方と「そうだったの?」と不思議がる年代の方がいると思います。

昭和33年の学習指導要領には、「生徒の現在および将来の生活が男女によって異なる点のあることを考慮して、各学年の目標および内容を、男子を対象とするものと女子を対象とするものとに分ける」とあります。昭和40年代に中学生だった私は、なんの違和感もなく技術科の授業を受けていましたが、こうした方針の基に家庭科の学習をしていないことになりました。驚きです。

その後、昭和56年以降の中学生は男子も家庭科を、女子も技術科を履修するようになりましたが、男女一緒に授業は一部の領域だけでした。現在のようになり、一年生から三年生まで

すべての内容を男女一緒に技術科と家庭科を学習するようになったのは平成14年以降のことです。また、高等学校の家庭科も平成6年から男女履修となりました。それまでは女子のみの履修だったのです。こうして見ると、学校教育におけるジェンダー平等の考え方は、今は当たり前となつていますが、その歴史は30年にも満たないということです。

家庭科の目標の一つに「家庭の機能を理解し、家族や地域の人々と協働することや、幼児触れ合い体験、高齢者との交流等、人よりよく関わる力を育成する学習活動を充実する」とあります。男女共同参画社会のめざす方向の一つである家庭生活の充実、そして子どもたちの人権感覚を育む基盤は家庭にあるという視点からも家庭科の学習の役割は大きいと思います。

年代によってどんな履修の仕方をしてきたかを話題にしてもいいながら家庭での家事や育児について考えていただければ幸いです。